

大部分は友琴門下の越中人が多く、北枝・牧童・句空・ノ松・小春・浪化等も居り、連句も載せられてゐる。本書はもと二冊本であるが、その下巻は未だ発見されぬ。

ツルギジ 劔地 鳳至郡仁岸郷に屬する部落。郷村名義抄に、この地に刀工がゐたから、村名は劔打から起つたとする。能登名跡志に、『家數二百軒あり。鐵の針金出來して、日本一の名物也。』とあつて、針がねを産したこと、寶曆十四年の調書にも見える。

ツルギジガハ 劔地川 ↓ニギシガハ 仁岸川。

ツルギジユウニシヨウ 鶴來十二勝 石川郡鶴來附近の十二景を數へたもので、後高峰鋒霞・手取川流漸・船岡爛櫻花・月惜山杜鵑・天狗壁薫風・眞名井祈雨・月橋邸掃衣・臥龍堤玉蟾・金劔祠紅葉・梨笠嘸時雨・雌坂龍懸水・白山頭銀雪である。嘉永年間京都の國學者福田美楯の選じた所。

ツルギジヨウ 劔城 石川郡鶴來の舟岡山に在つて、鶴來城・八幡城・白山城・舟岡城ともいひ、城背は山嶽重疊し、前面に手取川が榮帶する。文明六年狩野伊賀の賊衆とこの地に戦つたことは三宮古記に見え、越登賀三州志故墟考に長享の頃には一揆の魁坪坂平九郎が居たとある。天正十一年前田利家は高畠定吉をこゝに置き、十三年・慶長四年定吉また之を守つた。

ツルギノミヤマ 劔ノ御山 ↓ケンガミネ 劔ヶ峰。

ツルギハツケイ 鶴來八景 石川郡鶴來の十二景に基づいて、昭和の初年にあたり鶴來保勝會の選定したもの。後高峰朝霞・白山路

櫻花・月惜山時鳥・天狗橋納涼・臥龍堤月見・金劔祠紅葉・不動瀧水柱・一閑院暮雪がこれである。

ツルギミヤ 劔宮 鹿島郡久江原山分に鎮座し、今劔神社と號する。文政社號帳に、『劔宮、久江村之内原山鎮座産神、祭神素戔嗚尊・大己貴命。』とある。

ツルギヤマツルギジンジャ 劔山劔神社 鳳至郡南時國に在つた。式内等舊社記に、『劔山劔神社。町野郷時國村劔山鎮座。稱劔宮降魔大權現。祭神市木島姫命。別當所號劔山高田寺。』とあり、この劔宮降魔大權現は石動山から勸請したのであらう。高田寺は今もあるが、この社號は存せぬ。

ツルノホウチヨウ 鶴之庖丁 藩侯が元日に諸大夫の拜賀を受けた後、金澤城殿中桐之間に於いて鶴の庖丁を見た。庖丁は、料理頭が舟之間の二之間に在つて之を勤め、用人・臺所奉行傍に伺候し、庖丁終る時は、用人から料理頭に目録を與へた。當日の拜賀が終つてから後に、年寄・家老には松之間二之間、若年寄には別室で吸物・雜煮・酒を賜はるが、それが終ると更に近習頭を以て庖丁の鶴を給ふことを告げられ、年寄・家老・若年寄は、共に御居間書院二之間に於いて鶴の吸物・取肴及び酒の饗を受け、藩侯も亦膳部に之を用ひた。但し時代により相違がある。

ツルノマル 鶴ノ丸 金澤城本丸と三ノ丸との間に在つて、嘗て鶴の下りて居たのを芳春院が見たから名付けたとするものと、それは藩福院であるとするとするものと兩説ある。慶長の頃には便殿があつて、前田利長が横山長知に命じて太田長知を成敗せしめたのもそこであつたといふ。又大坂兩役の時、こゝに人質小屋を作つて、領内の一向坊主及び百姓町人の頭立つたものを入れ置いたともあるのは、下民の騒亂を防いだのであらう。

ツルノマルノカネ 鶴ノ丸の鐘 金澤城内鶴ノ丸の林中に在つて、非常の際早鐘として用ひるものであつた。しかし延寶八年九月三、丸番人への達書に、『御城下火事之刻、火元近きは勿論、程遠く共御城風下にて氣遣ひに候と被仰出次第、三ノ御丸早鐘つかせ可申。』とあるから、初めは三ノ丸にあつたものと見える。後享保十年二月初月越後屋敷の時鐘鑄直の際にはこの鐘を代用し、鶴ノ丸には天徳院の寺鐘を用ひ、十二年八月時鐘鑄直の際にも、亦鶴ノ丸のものを吊り代へ、寶曆災後にも之を用ひたが、明和七年九月時鐘成るを以て權現堂に置き、早鐘は越後屋敷から鶴ノ丸に復した。

ツルノマルノトライシ 鶴ノ丸の虎石 越登賀三州志來因概覽に、金澤城鶴ノ丸に古へ虎文の石があつて虎石と號したとある。可觀小説に、城中鶴ノ丸に虎石とて虎ノ声有之石があると載せてあるから、享保の頃には尙存在してゐたと見える。金城深秘録には戸室山から釣り出した石であるとす。今兼六園に在る虎石ではなからうか。

ツルベ 釣部 河北郡井上庄に屬する部落。龜尾記に、この村鎮に寺屋敷并びに古墳があり、齋田某の持城であつたと唱へる館跡がある。又釣部の黒染は、けんぼうよりも強いとある。

ツルマダニ 鶴間谷 金澤小立野から石川郡牛坂へ下る所で、その坂の上から見下すに、麓の道路のつゞら折なるが見られ、向かうの松山の眺望も殊に佳く、郊外の佳景であるため、詩歌連俳を好む雅客によつて賞罷せられた。鶴舞谷と書くのは、それらの者の用ひた文字であらう。

ツルマダニノシミス 鶴間谷の清水 金澤小立野鶴間谷の坂路半腹に在り、東向きで旭のさし入る地であるから朝日清水ともいうた。上石引町能登屋の名醸旭鶴は、この水で造られるものであつた。

ツルマチャマ 鶴町山 鳳至郡鶴町の部落南方に在る山。高さ一八一米。

ツルマヒダニ 鶴舞谷 ↓ツルマダニ 鶴間谷。

ツルミキ 鶴見達 憲好の子、初名は爲憲、又は柄。字は卑牧。通稱小十郎。謙堂・九橋又は古庵と號した。文政三年生。初め明倫堂に就きて學び、弘化二年江戸に上り、昌平齋に入つて佐藤一齋・安積良齋等に業を受け、嘉永二年國に歸つて明倫堂訓蒙加人となり、五年訓導加人に進み、安政六年助教加人となつた。萬延元年父の後を襲いで、祿百四十石を受け、儒者に列し、文久元年明倫堂易學主付となり、安政三年以降小松修道館に勤務したが、文久二年藩命じて京師に往き、土御門氏に就きて易學を修め、傍ら政界の形勢を探らしめた。達爲に大に奔走する所あつたが、次いで藩論の忌む所となり、幽閉せられること五年。明治元年宥されて復明倫堂の教師となり、三年權大屬に任じ、置縣の後文學教師となり、二十九年六月歿、年七十七。

ツルミコウ 鶴見弘 諱は弘、字は元毅、通稱胖藏、淡山・養霞樓清史と號した。家世々